

# 教育史だより



第13号（平成27年3月5日更新）

## 『教育年報』

総合教育センターでは、『神奈川県公報』や『かながわ教育』（「教育史だより」第11号参照）、『かながわ社会教育』、『教育年報』、『教委時報』などの教育史資料を所蔵しています。その中から、今回は『教育年報』を紹介します。

最初は『神奈川県教育概要』という名称で、昭和24年度の本県教育の記録として昭和25年6月に刊行されました。「総説」「教育財政」「学校の管理」「教職員関係」「学校教育」「社会教育」「健康教育」の七部構成で、巻末には教育委員会や事務局の機構や規則、職員名簿等が付され、総ページ数は161ページのもので、昭和27年度版までは『神奈川県教育概要』の名称で刊行され、昭和28年度版から『教育年報』に名称が変更され、平成31年度まで刊行されました（※）。

※途中、昭和52・53年度版のみ『教育白書』と変更されましたが、昭和54年度版から元の『教育年報』に戻されています。年代が昭和30年代、40年代と新しくなるにつれて、記述内容は教育委員会の定型的な実績報告の性格が強くなっていきます。

昭和24年度版『神奈川県教育概要』第一部の「総説」では、昭和23年秋に教育委員会制度が実施された後、本県の教育行政が辿ってきた道を顧みて、広く各方面に教育の現状を知ってもらうための資料の一つとして編集されたとあります。

さらに「教育改革の理想が実現される為には、現場における教育関係者の教育への熾烈な情熱とひたむきな努力に俟つことは言うまでもない」としながら、「真に自由と平和の生活を営むようになるには、どうしても教育による以外にないという信念を持って、教育尊重の実を表さなければならない」という教育関係者へのメッセージが述べられています。第五部「学校教育」の記述から、発足して間もない教育委員会事務局（現在の教育局）が試行錯誤をしながら制度をつくり上げていく様子をうかがい知ることができます。その内容の一部を列挙すると次のようになります。

### 学校教育指導

- ・指導主事を補助する「教科指導員」（※）を55名任命

※指導主事と共に教科の指導その他学校における教育計画を援助するものとされ、小・中・高等学校の教員が地区別に委嘱されました。

### 小学校

- ・本格的教育研究が発足
- ・社会科学習指導を中心として多彩な学習活動を展開

## 中学校

- ・新学制の基幹として独特な性格を持って設置
- ・選択教科制と個人別学習時間表、一教科担任制と教科教室制

## 高等学校

- ・学区制（19学区）の決定と男女共学（24年度は一部実施）
- ・定時制分校を津久井郡青根村に初めて設置（津久井高等学校青根分校）

## 幼稚園

- ・最初の県立幼稚園として県立横浜幼稚園を県立横浜第一女子高等学校（現、横浜平沼高等学校）に併置
- ・町立秦野幼稚園を中心に本県幼稚園カリキュラムを構成

## 特殊教育（※）

※昭和22年施行の学校教育法上の名称。平成18年の学校教育法改正後は「特別支援教育」。

- ・盲ろう就学児童募集と教師養成が課題
- ・県下小・中学校に「特殊学級」特設の気運が具体化

昭和24年度版(左)と昭和25年度版(右)



昭和26年度版(左)と昭和27年度版(右)



## <参考資料>

神奈川県教育委員会 1950 『かながわ教育』第八号

神奈川県教育委員会 1950 『神奈川県教育概要』

## 問合せ先

神奈川県立総合教育センター  
学校教育支援課 学校支援班

(0466)81-1659